Takarazuka International Friendship Association

Vol. 47　創立30周年記念特集号 2019

ー　国際交流活動30年のあゆみ　ー

創立30周年記念講演会(駐大阪・神戸米国総領事館領事部部長　シリア・トンプソン氏)
2018.10.17　於：　宝塚ホテル

特定非営利活動法人　宝塚市国際交流協会

目　次

理事長挨拶 …………………………………… 1
祝辞と挨拶 …………………………………… 2
創立30周年記念事業実行委員長挨拶 …………… 4
創立30周年記念関連事業 ……………………… 5
年表と写真で見る30年 ………………………… 8
TIFA委員会の事業体系 ………………………… 17
TIFA 6委員会の活動内容 ……………………… 18
海外姉妹都市(オーガスタとウィーン市第九区) …… 20
会員投稿 …………………………………… 22
創立30周年表彰者の声・声・声 ………………… 24
TIFA独自の活動いろいろ ……………………… 26
団体・法人会員 ………………………………… 30
歴代役員 …………………………………… 31
月刊誌「NEWS LETTER」について……………… 32

創立 30 周年を迎えて

理事長　加藤　啓子

今日のグローバル化した現代社会は、各国、各地域が多様な文化、価値観の相違の中で個々の問題をかかえ、複雑になり、その問題解決が益々難しくなっています。社会、政治、経済、環境問題のグローバル化が急激に加速された世界の状況の中で、国際交流協会が担う役割は大きいと確信いたします。

国際化の波の中、各市で、姉妹都市交流が盛んになっていた昭和62年（1987 年）に宝塚市でも国際交流のあり方を検討するために国際交流市民懇談会が設立されました。
国際化の時代を迎え、世界に開かれた魅力的な街づくりをするための提言をすることになり、懇談会メンバーが協議を重ねました。

懇談会は宝塚市で活動する商工会（現　商工会議所）、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、JC（青年会議所）を始めとする市民レベルの23法人・団体に依頼があり、代表者が集い海外都市との交流を促進し、市民レベルの裾野の広い多様な交流を行うための提言をすることでした。

宝塚市においても歌劇や温泉といった観光資源を通じて国際的な交流が行われていましたが、検討の結果、市民レベルの多様な交流を展開するために「宝塚市国際交流協会」の設立が提言されました。

翌年、昭和63年（1988 年）10月17日に宝塚市国際交流協会設立総会が開かれ、協会が30年に亘り、国際交流事業を継続するスタートとなった記念すべき日となりました。

設立総会において会則が制定され、団体として「宝塚市と外国都市との市民および団体間の交流を行い、相互理解と親善を促進するとともに、市民生活の向上に寄与することを目的とする。」目的達成のために事業を行う体制が整いました。 記念講演は在大阪・神戸米国総領事ジョン・R・マロット氏による総会記念講演「日本人の国際化」は宝塚市国際交流協会の役割と活動の指針を示唆された講演だった事が思い起こされます。 国際化とはインバウンドのみでなく、アウトバウンドの相互があって始めて効果が表れることに気づかされました。

それは、協会が創立 30 周年を迎えた今も協会事業の重要な目的の 1 つです。

30 年を振り返って、事務処理をする事務局は現在の国際・文化センターに拠点ができるまでは、宝塚市役所内に置かれていたのも懐かしい思い出になりました。

協会は任意団体として発足、その後、NPO 法人資格を取得、国際交流事業に加えて、10 年前には市立国際・文化センターの指定管理者としての役割を担う団体になりました。
宝塚市の海外姉妹都市は米国ジョージア州オーガスタ市とオーストリア　ウィーン市第九区の 2 都市ですが、交流が途絶えがちになっているのは大変残念な状況ですが、協会は市民レベルの交流継続に立ち上がっています。

30 周年を機に会員であることを誇りに思える協会の実現に向かって、国際交流協会が担う役割を再認識し、地域の国際化を図り、地域社会に寄与していく新たな一歩を皆さまと共に踏み出したいと思っています。

宝塚市国際交流協会に期待すること

宝塚市長　中川　智子

宝塚市国際交流協会が創立 30 周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴協会には創立以来、市民の国際交流や異文化理解の推進にご尽力いただき、その長年に亘る取り組みに深く敬意を表し、感謝を申し上げます。

グローバル化の進展に伴い、日本に在留する外国人が増え、本市においても約三千人の外国人市民が暮らしておられます。様々な国籍や民族の人々が生活を共にする現代社会では、しばしば文化や宗教、価値観等の相違によって摩擦やトラブルが生じる一方、少子高齢化が進み、人口減少時代を迎える今後の社会では、外国人市民が地域経済を支える働き手の役割を担うと予想され、共に地域の構成員として、また、隣人として、相互理解を深め、協力し、地域社会を築いていくことが益々重要になると考えています。

つきましては、地域の国際化を牽引する中心的組織であり、外国人市民の生活支援等、外国人市民との関わりが深く、豊富な経験と実績をもっておられる貴協会に、多様な文化や価値観が尊重される豊かな社会の実現に向け、なお一層のお力添えを賜わりますようお願い申し上げます。

結びに、この節目の年を契機としまして、貴協会の更なるご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

TIFA は模範的な地域国際交流団体

兵庫県国際交流協会副理事長　　多木　和重

宝塚市国際交流協会（TIFA）の創立 30 周年、おめでとうございます。TIFA は、創立以来、「拡げよう世界との交流」の理念の下、多岐にわたる事業を積極的に展開され、草の根交流や地域国際化を着実に進めてこられました。

当協会との関連でも、オックス･ブリッジ学生の受入れなどのほか、来年度は「日米・草の根交流サミット兵庫・姫路大会」に地域分科会の受入団体として参画いただく予定です。こうした活動をすべて民間主導で行われており、まさに模範的な地域国際交流団体と言えましょう。

現在、少子化や人口減少を背景に、外国人材の受け入れに関心が高まっています。当協会では、かねてより「多文化共生社会の実現」を事業の柱に位置づけていますが、今後予想される外国人住民の増に対しても、引き続き、県下の国際交流団体とも連携して対応し、外国人県民と理解し合い支え合う社会の構築を目指したいと思いますので、よろしくお願いします。

併せて、TIFA には、創立の原点である草の根交流も大切にしていただきたいと思います。ユネスコ憲章にも世界平和は人類の精神的連帯の上に築かれねばならないという趣旨の言葉があります。地域のささやかな取組も含めて、世界の人々が多重多層につながっていくことが、大げさかも知れませんが、世界平和という理想に近づくと思います。TIFA が市民・地域に根ざした活動を展開されることを期待しています。

機関誌 TIFA 47 号(創立 30 年記念誌)発行に寄せて

宝塚市議会議長　北野　聡子

宝塚市国際交流協会が、創立 30 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。本市の国際交流は、1989 年 4 月にオーガスタ市と姉妹都市提携を結んだ頃から本格的な取り組みが進められてきましたが、会員の皆様は、その当時より、市民レベルでの国際交流の中心として活動を続けてきていただいております。その後、2005 年には NPO 法人となられ、さらには、2008 年 4 月からは宝塚市立国際・文化センターの指定管理者としての業務に取り組まれるなど、活動を広げながら事業を継続しておられますことに、敬意を表する次第です。

また、海外との姉妹都市交流のみならず、市内在住の外国人市民の生活支援や、日本語学習支援などの取り組みも積極的に進められており、身近なところからの国際化や、異文化に対する相互理解を深めるためにもご尽力いただいております。これからも、市民の国際交流・国際理解の推進にお力添えをいただきますようお願い申し上げます。2020 年東京オリンピック開催まで、あと 2 年をきり、諸外国との交流の機会が増えていくことと思います。これを契機に、多くの人々が、各国の歴史、文化、生活様式などにも関心を持ち、理解を深めていただくことにより、国際交流につながっていくことを願っております。

結びに、皆様方のご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、宝塚市国際交流協会の益々のご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

宝塚市国際交流協会創立 30 周年に寄せて

宝塚市教育長　　森　恵実子

宝塚市国際交流協会が、創立30周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。宝塚市が世界と繋がる架け橋として、異文化相互理解を深める国際交流のみならず、在住外国人や海外に出かける方への生活相談、日本語を母語としない人を対象とした日本語教育事業など、多岐にわたりご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

とりわけ、オーストラリア・メルビル市と本市の中学生の国際交流推進事業では、アップルクロス校の生徒のみなさんが日本の食文化を楽しみながら学べるよう、英語で解説をしながら一緒に調理をしていただくなど、たくさんのご支援をいただいております。また、日本語の不自由な児童生徒、保護者に対するサポーター派遣をはじめ、教育委員会の事業に対してさまざまな形でご支援、ご協力をいただいておりますこと、心奥深くより感謝申し上げます。 さて、現代社会は急激な変革期にあります。グローバル化、情報化が進み、より一層他者を理解し尊重する心を持った子どもの育成が私たちの責務となっています。

今後も、国際理解教育の推進に向けその一翼を担っていただけることを切望しますとともに、貴会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

特定非営利活動法人　宝塚市国際交流協会
創立 30 周年記念事業

宝塚市国際交流協会（TIFA）は、2018 年 10 月 17 日に創立 30 周年を迎えました。これを祝して記念式典を始め、多彩な行事が委員会ごとに企画され、2018 年４月１日から 2019 年３月３１日に至る１年間にわたり、市民と共に数々の行事を致しました。 30 年の伝統と歴史に想いを馳せて、決意あらたに新しい一歩を踏み出す意義ある一年となりました。

TIFA 活動の原点を求めて

TIFA 30 周年記念事業　実行委員長　　木原　正宣

実行委員長を務めて、7 回の準備委員会を開催しました。今年度の最大のイベントである、記念式典記念講演会を、2018年10月17日に、宝塚ホテルで開催、無事終了し、ほっとしています。委員の皆さんのご協力に感謝申し上げます。

宝塚における、「国際交流」や「多文化共生」という言葉が、よく使われますが、言葉は簡単ですが、実際にそれを実践するのは、簡単ではないと思っています。一方、諸外国ではいまだ、「民族対立」や「宗教対立」が起こっており、多くの人たちが、傷ついたり、深刻な被害を受けたりしています。宝塚においては、このような問題は発生していませんが、日々の生活では、「ゴミ出し」や「騒音」などで、外国人住民との間で、トラブルが発生している地区があるかもしれません。

日本では、少子高齢化問題が、社会的に大きな問題となり、人手不足が深刻化しています。政府は、その対策として、外国人の在留資格の改定を実施して、単純労働や、介護、建設などに従事する外国人労働者への門戸を広くしょうとしています。宝塚においても、その結果、長期滞在する外国人が増加してくることは、まず間違いないと考えられています。

これらの外国人の方々が、この地において、日本人同様に、快適、安全な生活を営めるように、様々な、活動を展開していくのが、TIFA 活動の原点ではないかと考えています。また人手不足の影響のためか、定年制の延長や、高齢になっても、働き続ける人達も増えてきております。その結果、TIFA 活動の担い手になっておられる高齢の人材の確保も難しくなってきています。考えてみれば、「国際交流」や「多文化共生」は、若い世代こそ、その影響を強く受けるわけで、今後、学生団体や、企業で働く現役世代を巻き込んだ活動を展開できるかが、TIFA の将来を決することになるのではないかと予測しています。

創立 30 周年事業の一年は、TIFA の原点を求める年になりました。

創立 30 周年記念関連事業

月/日	事業内容・場所
	2018 年
4/1	外国人と日本文化を楽しむ会「平林寺花まつり」
4/21-22	アジアンバザー（花と緑のフェスティバル） 末広中央公園
5/19	外国人のためのフリーマーケット
5/24	神戸北野で身近な異文化を学ぶ街歩き ハリスト正教会他
6/23～	トラベル英会話～初心者向け3カ月コース～
6/23～	キッズ英話～トライアル3カ月コース～
6/3	英語講演会 Turkey and its Culture トルコとその文化
6/14	花みずき会 バーベキューパーティ
5/12. 7/14, 8/9. 9/8, 11/10,1/12	英語サロン ネィティブスピーカーと英語でおしゃべり
7/29-8/4	オックスブリッジ交流「ふれあい歓迎会」「ケンブリッジ大学生と楽しむ料理の会」「ダニエル＆エイダと英語であそぼう」
8/6	サマーコンサート 宝塚ベガ・ホール
8/18	超やさしいドイツ語～初心者向けレッスン パート 3～
8/19	国際理解講演会①「わたしの故郷シャーロット市」J・ボリンジャー
9/21	メルビルアップルクロス校 日本料理教室
10/11	ウィーン・ピアノ五重奏団ボランティアコンサート ベガ・ホール
10/17	創立30周年記念式典と講演会 宝塚ホテル
11/9	「キムチ作り」講習会
11/11	外国人と日本文化を楽しむ会 「尺八と琴を楽しもう」
11/15	「消防署」外国人対象オリエンテーションに議員連盟と共催
11/25	英語講演会 Syrian Civilization シリアとその文明
12/8	花みずき会 クリスマスイベント
12/15	国際理解講演会②「地殻変動の世界と日本の進路」 田邊隆一
12/16	松本・土井アイリン海外留学修了者報告会
	2019 年
1/6	TIFA 新春懇話会 ミニ講演会と琵琶の引き語り ギニヤール
2/3	日本文化を楽しむ会「節分」
3/2-3	宝塚NGO活動紹介展 アジアの国を見て、ふれて、感じよう！
	多文化共生フェスタ 国際交流フェスティバル エスニック喫茶
3/23	国際理解講演会③「21 世紀の活動と国際貢献」 青木俊一郎
3/31	機関誌 47 号 創立30周年記念誌の発行

平林寺花まつり

-平林寺の花まつり-

4 月 1 日、 まさに春爛漫、桜満開、1400 年の歴史をもつ平林寺の花まつりに 15 名の外国人を含む 42名が参加しました。

隣の宝寿院で行事の説明を受けたあと、お寺から振舞われたぜんざいに舌鼓をうちながら和やかに交流しました。

修験者の迫力ある護摩炊ぎを間近で見学して、外国人参加者から驚嘆の声。修験者の方々と交流して、独特の装束について質問や、ほら貝の吹き方を教わる人もいて、和やかな会になりました。帰り道には隣の宝塚神社境内からの眺望を楽しみました。年に 3 度行う外国人と日本文化を楽しむ会行事です。

花と緑のフェスティバル

花と緑のフェスティバル

4 月 21 日～22 日、市主催の「花と緑のフェスティバル」に国際交流協会と共に活動しているNGOの4団体が「アジアンバザー」として参加。晴天にも恵まれ、現地で調達した様々な品物の販売、NGO団体の活動及び現地の様子についてパネル等で紹介しました。大勢の市民でにぎわいました。

（参加団体：ﾌｨﾘﾋﾟﾝ AKAY、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄをともに創る会、学生国際協力団体「CUE」、ﾍﾞﾄﾅﾑ友好協会）

楽しい街歩き！「神戸北野で身近な異文化を学ぶ」

5 月 24 日快晴、開港 150 年を迎える神戸北野の居留地には、 明治の開港より世界各国から数多くの外国人が居住しております。心の拠りどころである教会、寺院、モスク等は、少し敷居が高そうで入り難い感じがしていました。参加者 31 名は、カトリック中央教会、エキゾチックな街並みの神戸でもひと際目を惹くミナレットの尖塔を持つモスク、ジャイナ教寺院と共に靴を脱いで白く輝く大理石造りの内部、リスト正教会の聖堂ではロシア正教、ギリシャ正教でも見られる聖像画のイコンが飾られ、バプテスト教会では英国国教とキリスト教徒の違いの説明と聖堂裏の階段を登って洗礼沐浴の槽を歩きました。一切内部の見学が不可とされていた関西ユダヤ教の見学も許され素晴らしい企画であると喜んでいただきました。

花みずき会バーベキューパーティ

６月 14 日、外国人グループ「花みずき会」のバーベキューパーティが生活相談委員会の協力のもと、今年も市立スポーツセンターで開催。 梅雨の合間のバーベキュー日和となり、参加者 25 名うち外国人 19 名(中国、タイ、韓国、ベトナム、モンゴル、イラン、子供３人)が、舌鼓を打ちながら、楽しくにぎやかに談笑し親睦を深めました。「花みずき会」の会長も決まり、皆さん笑顔で集合写真に納まりました

オックスブリッジ交流(Oxbridge Summer Camps)

７月29日～８月４日、英国のオックスフォード大学とケンブリッジ大学の学生組織 Oxbridge Summer Camps Abroad (OSCA) が、県の国際交流協会(HIA)と行っている事業です。毎年OSCAの学生が来県して、英会話を教えたり, 様々な国際交流活動を行います。TIFAは「ひょうご国際交流連絡協議会」の中で、最初に学生を受け入れました。2018年は、ケンブリッジ大学生2名を受け入れました。

7/ 31(火) : ケンブリッジ大学生のダニエル･フェルナンデスさんとアダ･マーゼクさんの歓迎会
ダニエルさんはLondon-my home city、アダさんは Everyday life of a Cambridge student と題して、それぞれイギリスでの生活の紹介、続いて市交響楽団有志による「エルガー愛の挨拶」などイギリスに馴染み深い楽曲で雰囲気が盛り上がり、お茶とお菓子の交流会でした。

8/ 2(木) : イギリス料理の会(冷製ピー＆ミントスープ･生ソーセージ･マッシュポテト、グリーンピース添え、デザートのブレンド＆ バタープディング)の 3 品。 参加者は小学生を含む 24 名。和気あいあい、暑い夏のオーブン料理で汗をかきかきボリュームたっぷりの料理を堪能しました。

8/ 3(金) : 中学生との交流会
パワーポイントを使って学校の紹介。折り紙づくりにタコ焼きも

8/ 4(土) : Kids英語「英語で遊ぼう」を2回行い、24人が参加。西高の2年生7人がボランティアとして、行ったゲームはMusical Chair, Splats, Hands Game, Detective など

サマーコンサート　8月6日

外国人演奏者に TIFA で日本語を教えており、そのお礼として始まったチャリティ音楽会。その素晴らしい演奏と出演者の温かい人間性に触れるコンサートです。30 周年の今回は、クラシックメンバーによる編曲の歌謡曲メドレーなど、趣向を凝らして、ユーモアあふれ盛り上り、終了後ホールエントランスでメンバーと懇談しました。

ウィーン・ピアノ五重奏団　10月11日
ボランティアコンサート

ウィーン国立歌劇場管弦楽団コンサートマスターのゲーデ氏を中心に結成した五重奏団。2011 年以降、東日本大震災被災地のため毎年被災地を訪れ、70 回を超えるボランティア演奏会を実施。 災害活動支援金の募金活動も実施し、総額 215,251 円全額を寄贈。

宝塚市国際交流協会創立 30 周年記念式典および記念講演会

10 月 17 日、宝塚ホテル「すみれの間」で、宝塚市国際交流協会創立 30 周年記念式典および記念講演会が開催されました。当日は久しぶりの秋晴れで、華やかな雰囲気の中で、多数の方々が参加されました。式典には、宝塚市長、県国際交流協会副理事長、市議会議長、教育長、市議会国際交流推進議員連盟の議員、及び近隣の国際交流協会の代表者、当協会団体、法人会員の方々が出席されました。市長を含め4名の方々にご挨拶いただきましたが、いずれも永年にわたる当協会の活動に対して高い評価と今後の様々な活動について期待を込めて激励いただき、改めて当協会の責任と市民の皆様の期待の大きさを感じました。式典では永年(30 年)会員に感謝状が授与されました。

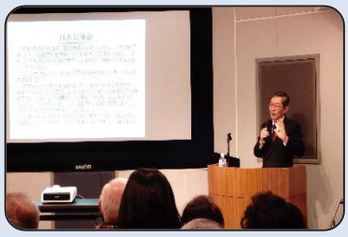
最後に宝塚商工会議所会頭の音頭で乾杯を和やかなムードで行いました。続いて記念講演会を開催しました。講師は、シリア･トンプソン氏(駐大阪･神戸米国総領事館領事部部長)、演題は「日米パートナーシップの強み、関西からの視点」 経済中心の内容でしたが、好評で英語での講演を今後も望む多くの方々がおられました。

講演後、トンプソン氏との交流には多くの方が順番を待つなど有意義な時間を持つすべての行事を終了しました。

TIFA 創立当初からの会員

第 3 回 国際理解講演会 「地殻変動の世界と日本の進路」
ー1945 年以降の世界の歴史を踏まえてー

12 月 15 日、世界と日本の進路シリーズについて講師の田邊隆一氏は、 TIFA に今回で 3 度目のご登場です。長年の大使経験をもとに、1945 年から現在に至るまでの世界の動きをくわしく説明されて「世界では、今どんなことが起きているのか」、「日本はどういう状態なのか」などをよく知ったうえで考えるべき時代ですと強調されました。



これまでの流れとは異なり、世界では大きく地殻変動が起きています。今後ますます、中国と米国の覇権争いは激化し長期化していきます。日本は民主主義と市場経済のルールを踏まえた各国とともに協力しあって、世界の安定と平和のための努力を倍加し、積極的に貢献するのが日本の役割であり、私たちの使命ですと話されました。

年表と写真で見る30年 ①（1988～1997年）

創立記念フォーラムのパネルディスカッション 1988.10.17

De Vaneyオーガスタ市長と 1989.5.13

第19回宝塚まつり「国際交流PRコーナー」に出展 1993.8.24～25

1988
(昭和63)年
宝塚市国際交流協会設立
第1回総会及び設立記念
フォーラム開催

1989
(平成元)年
宝塚市でオーガスタ市との姉妹都市提携調印式、及び記念レセプション開催

1991
(平成3)年
会報「TIFA」
創刊号発行

1992
(平成4)年
7事業委員会を設立
（企画・講座・広報・交流・生活相談・通訳ガイド・ホームスティ）

1993
(平成5)年
・ネパール王国へ消防車と救急車を寄贈（市と共催）
・第1回「外国語コミュニケーション教室」(英語)スタート
・宝塚市国際交流協会創立5周年記念事業

異文化間生活相談事業に於ける日本語教育事業の変遷

宝塚市国際交流協会（TIFA）において、1993年(平成5年)宝塚市からの委託を受けて異文化間生活相談事業の一環として日本語教育事業が始まりました。姉妹都市交流が軸の国際交流から外国人市民への支援活動に枝を広げた重要な時期でもあります。

日本語教室が開催された当時は、学習者15名程度、日本語教師4名で小規模なスタートをしています。その後1995年(平成7年)の阪神大震災を契機に、日本語が分からなくて大変困ったという状況から外国人への日本語支援の重要性が叫ばれ、当協会にも日本語ボランティアが多く集まり、日本語教室だけでなくチューターレッスンと呼ばれる個人指導が開始されました。

2000年（平成12年）事業基盤もできた時に日本語学習委員会が立ち上がり、運営業務も委員会が受け継いでTIFAにおいて最大規模の委員会となりました。

1990年(平成2年)の入管法改正により、所謂日系三世までの入国が認められ、就労自由の外国人数が増加し、当協会にも2000年頃から多くのブラジル人が日本語学習を求めて来るようになりました。家族連れも多く、子どもの学校問題を抱えて、教育委員会との連携が求められ、日本語教育事業開始以降初めての大きな問題でした。

2008年(平成20年)のリーマンショック以降、一時的に外国人の数は減りましたが、その後は年間2000件前後のレッスン数を維持しています。(続く)

アネット・ブッシュ南部水彩画協会会長を交えてオーガスタ談義 1994.8

創立5周年記念式典 1993.12.25

第1回宝塚NGO活動紹介展 1997.2

転入外国人生活オリエンテーション 1996.3.9

1994 (平成6)年

・宝塚市より市制40周年記念に際し、「都市づくり功労者」受賞
・ウィーン市第九区との姉妹都市提携調印式（10月18日）に市民交流団（118名）を派遣

1995 (平成7)年

・日本語個人レッスン業務スタート

・第2次市民交流団をウィーン市へ派遣。ウィーン市長を表敬

1996 (平成8)年

・阪神淡路大震災時の外国人市民への支援活動に対し宝塚市より感謝状を受賞

・第1回宝塚市外国人日本語スピーチ大会

1997 (平成9)年

・第1回　宝塚NGO活動紹介展を開催

・ウィーン市第九区姉妹都市3周年記念
・宝塚市民ウィーン交流訪問団がウィーンで宝塚紹介写真展開催

日本語学習の目的は第一に生活に必要ということです。それから仕事上、例えば介護士の国家試験を受けたいとか、企業の研修生で日本語が必要とか、日本語能力試験を受けたい等ですが、留学生や中・小学生も学習に来ていて、地域の日本語学習支援は一般的に多様化しているのが特徴です。

2010年(平成22年)新たに外国人技能実習制度が導入され、宝塚市にもこの制度を使って外国人が多く来ており、TIFAの日本語学習に参加している実態も見られるようになり、2011年に開講した「くらんど日本語教室」にも実習生が来ています。この実習制度は労働条件も厳しく、入れ替わりも早くて中々学習の継続が困難な状況ですが、昨年以降ベトナムやフィリピン等からの実習生や留学生の学習者も増えて、徐々に増加の傾向を見せ始めています。

更に2018年(平成30年)、労働力不足を補うため、外国人労働者の受け入れを拡大する入管法等改正が決まり、2019年4月から初年度4万人、5年間で34.5万人とも言われる外国人就労者の受け入れが始まる見込みです。この法改正で当協会の日本語事業が影響を受けることは十分予想されます。
日本語学習支援が創設以来25年を経過し、入管法改正やその社会情勢に合わせて変化、調整しながら、今日 外国人支援事業の根幹を支えるまでになっています。

TIFAの日本語学習をきっかけに、外国人が民間大使事業に参加したり、講演会の講師に呼ばれたりして地域活動に参加しているのは日本語事業にとっては大きな成果です。

日本に定住する外国人が自立して地域社会の中で自信をもって生活できるよう、生活支援の立場で事業を強化し継続していかなければなりません。(現TIFA副理事長 奥田啓子)

年表と写真で見る30年 ②（1998～2005年）

創立10周年記念式典 1998.10.17

オーガスタ姉妹都市10周年
ヤング市長来宝　1999.9

「世界に開かれたまち」民間国際
交流団体部門で受賞　2000.1.14

1998
(平成10)年

・異文化相互理解事業を市から受託

・宝塚市国際交流協会創立10周年記念事業

1999
(平成11)年

・オーガスタ市へ宝塚市民訪問団(58名)を派遣

・ウィーン市第九区姉妹都市提携5周年記念事業

2000
(平成12)年

国際交流事業に対し、自治大臣表彰を受賞

2001
(平成13)年

・ウィーン市より寄贈された淡路島花博出典のウィーン庭園(宝塚歌劇前) 開園式

・ウィーン市第九区姉妹都市提携7周年記念事業（関西日墺協会共催）

ハナミズキ活動 「花みずき会」の誕生

「花みずき会」が呱々の声を挙げたのは、今から11年前の平成19年10月14日のことでした。この日外国人グループのリーダー格のデイヴィッド・ヘプラーさんを中心として数名の外国人が集まり、われわれ支援グループからはFさんだけがオブザーバーとして顔を出しました。

会の名前はヘプラーさんが自ら付けたものです。いい名前ですね。日本人会員はメンバーに加わらず、あくまでも「支援グループ」の立場で応援しようということにしました。

かねがね犬山国際交流協会が外国人市民を枢要なポストにつけて居住外国人への対応に大きな成果を挙げているということを耳にしていましたので、その実態を知りたいと思い、後日ヘプラーさんを含む数名で訪ねました。

犬山市は人口7万5千人、登録外国人はフィリピン人・ペルー人・ブラジル人など2千人です。（続く）

市民親善訪問団のウィーン訪問
2002.4.23 - 28

第1回国際NGO展開催 2003.12.13

創立15周年記念 2003.10.18

特定非営利活動法人(NPO法人) 宝塚市
国際交流協会設立総会 2004.10.14

2002
(平成14)年

・広報委員会にHP(ホームページ)部を設置、HP運営を本格化
・ウィーン・ピアノ四重奏団コンサート

2003
(平成15)年

・創立15周年記念式典、記念講演
・第1回国際NGO展開催(バザーと写真展示)

2004
(平成16)年

・総務大臣より「阪神間多言語生活情報」作成に対し、メンバーとして表彰状を受賞
・民間大使派遣事業（小中学生に外国についての授業）スタート

2005
(平成17)年

特定非営利活動法人(NPO)資格を取得

県の常勤外国人はゼルマーさんという40才位のドイツ人女性で、ご主人は日本人です。協会ではニュースレターを年12回発行していますが、同時にゼルマーさんを編集長とするスタッフが多言語ニュースレターを年4回発行し登録外国人に配布しています。行政の下請けにならないよう棲み分けには充分留意していると聞きました。
こういう好事例も参考にしながらこの会はよちよち歩きを始めました。

先ず花みずき会の予算を別枠とし、例会場として第三木曜日に図書コーナーを専用することに加えて、毎週木曜日外国人専用に解放することにしました。当面ニュースレターの部分的多言語化から始め、徐々に市関係の刊行物に手を広げる方向性も決まりました。
ただ、私たち支援グループが発足当初に描いた、将来的には外国人を委員長とする外国人だけの委員会にまで早く育って欲しいという夢がまだ実現していないのが心残りでなりません。（元TIFA理事長 伊藤通）

年表と写真で見る30年 ③（2006～2012年）

ウィーンプルカント コンサート
2006.8.22

花みずき交流会・ポットラックパーティ
2008.2.21

創立20周年記念式典 2008.10.17

2006
(平成18)年

・ウィーンプルカント
コンサート 2006
(2回目）

・第1回国際化
フォーラムin宝塚

2007
(平成19)年

韓国教職員招聘プログラム（30名）、家庭訪問、ホームスティで受け入れ

2008
(平成20)年

・宝塚市より、国際・文化センター運営の指定管理者に指名
・創立20周年記念式典、記念講演

2009
(平成21)年

・第1回洋画上映会「懐かしの名画劇場」(6回/年)を小ホールでスタート

・第1回「サマーコンサート」
(外国人音楽家出演)

第1回「サマーコンサート」

TIFA創立20周年記念誌

桂かい枝落語講演

TIFAの改革

TIFA創立より10年を経て、3期6年間（1998～2003）まで初の女性会長を引き受け無我夢中で過ごしました。何よりも嬉しかったことは 1993年に宝塚南口に宝塚市立国際・文化センターがオープンしたのを機に宝塚市から、TIFAに活動の場が提供されたことです。駅に近くすこぶる交通の便もよく、広々したスペースに早速、市役所にあった事務局が移ってきました。会員の活動の拠点ができて活気があふれてきました。姉妹提携を結んだアメリカのオーガスタ市とウィーン市第九区との文化交流が盛んで市民と共に訪問を重ねていました。

その間にも世界情勢は徐々にglobalizationの波に乗って人、物、金が自由にしかも急速に交流するようになりました。当然、TIFAも組織の簡素化、効率化を図る必要にせまられました。今までの外部団体から参加の理事会を廃止しました。具体的には7つの委員会即ち企画、広報、交流、講座、通訳ガイド、生活相談、ホームスティを起ち上げました。400人の会員は自分の得意とする委員会に2つまで入ることが可能で委員として自主的に企画活動できます。各委員会から委員長が選ばれ委員の意見をまとめて理事会に報告します。（続く）

「ウィーンの風にのって」コンサート
2010.8.30

アップルクロス校の生徒に日本料理講習会を開催　2012.10.3

淡路市国際交流協会へ交流訪問
2012.11.7

2010
(平成22)年

・「ウィーンの風にのって」コンサート
・ベトナム総領事講演会・懇親会
・宝塚国際交流フェスタ

2011
(平成23)年

・宮城県名取市国際交流協会「ともだち in 名取」支援事業として「ウィーンの風にのって」チャリティコンサート

・アジア各国巡りエスニックコレクション「民族衣装の紹介とバザー」開催

2012
(平成24)年

・「ともだち in 名取」へ理事長他5名訪問、支援金他支援物資を贈呈
・アップルクロス校生徒対象日本料理講習会
・淡路市国際交流協会訪問、バスツアー

新しくできた理事会は各委員長で構成されTIFA全体を把握し運営がよりスムースに運べるようになりました。理事の中から会長、副会長、会計がきまります。3役を出した委員会は副委員長が昇格します。これで常時、約100人の会員が委員となり活発に意見を出し合い役割を決めて活動開始となります。活動の主役は会員です。ボランティア精神で汗を流して協力し成し遂げた時の達成感は気持ちのよいもので自分磨きにつながります。

もう一つ忘れてはならない改革は、「団体会員」を設けたことでした。TIFAの活動は、時代に沿って交流から協力、貢献、共生へと視野範囲が大幅に広がってきました。
色々な団体がTIFAを通して横の繋がりを強めサポートし合って活動の輪が広がるのを期待しています。
現在、23団体が登録活動しています。

1999年に自治大臣から、民間国際交流部門で表彰されたのは　すべての活動の担い手が会員であることが高く評価された結果と自負しています。（元TIFA会長 森脇洋子）

年表と写真で見る30年 ④（2013～2017年）

国際理解講演会「もっと知りたいフレンチスタイル」（ジャン・フィリップ・ボルドリー）2013.7.13

アジア各国巡り「エスニックコレクション」2013.10.12

転入外国人対象オリエンテーション「クリーンセンター見学会」2015.11.12

2013
(平成25)年

・中国茶道体験講習会
・国際理解講演会「もっと知りたいフレンチスタイル」
・創立25周年記念式典、記念講演
・転入外国人オリエンテーション「自転車運転講習会」

2014
(平成26)年

・国際理解講演会、五百籏頭真氏「グローバル化に向き合う日本のあり方」
・TIFA創立25周年記念誌発行
・ウィーン市第九区姉妹都市交流20周年記念、「ウィーンの風にのって」コンサート開催

TIFA創立25周年記念誌

2015
(平成27)年

・世界の食と健康シリーズ「ウィスキーの故郷スコットランド」
・TIFAバスツアーで佐用町国際交流協会、播磨科学公園都市へ

岸和田市親善協会へ交流訪問「だんじり祭り」見学 2014.9.13

生活相談活動の30年

現在、生活相談室は月、火、木、金、の午前中と土曜日午前・午後に開かれ、月5件～15件の相談を受けつけている。また市役所でも予約ある時は受付ける。

生活相談は、団体会員である「Kidsの会（国際交流を考える婦人のつどい）」が1988年6月に始めた『海外生活のためのよろず相談』がその前身である。TIFA開始の1988年10月よりも少し早いスタートだった。帰国児童の母親達である「Kidsの会」メンバーは自分たちの海外経験を活かし、海外生活への不安、帰国時の不安等を主とした相談業務を、月1回市民会館で始めた。まもなくTIFAが始まり、会員となったメンバーがKidsの会として毎月曜日の相談業務を受け持ち、委員会が木曜日担当、週2回の出発となった。1993年9月名称が現在の「異文化間生活相談」と変わり現在に至っている。その後、委員会とKidsの会での週2回２人体制が週6回に変わり、委員の人数都合により１人体制となった。さらに1995年の阪神・淡路大震災時には被災した外国人への随時生活相談を行い忙しい時を重ねた。その頃から相談内容は変化して外国人のビザ問題等が増え、私達は定期的な研修を受けるきっかけとなった。

時代と共に相談内容も変化し、2019年4月からは「改正出入国管理法」の影響も考えられる。委員会として、これからも30年間の経験を糧として相談業務と各行事にはゆとりを持って挑戦して行きたいと思う。

（現TIFA理事　生活相談委員長 城戸ますみ）

第13回国際交流フェスタ 2016.3.5

宝塚市国際交流推進議員連盟との交流
宝塚市市議会議場見学　2016.1.25

第22回異文化相互理解事業「外国人日本語スピーチ大会」2017.2.18

2016 (平成28)年

・ジャパン碁コングレス 2016 in 宝塚と宝塚国際室内合唱コンクールに通訳の派遣
・世界の音楽と文化講演会シリーズ　ヨーゼフ・ラスカと少女歌劇オーケストラ

2017 (平成29)年

・外国人と日本文化を楽しむ会 「平林寺の花まつり」
・国際理解講演会「ペルシャ絨毯の魅力 数千年の歴史と伝統文化」
・たつの市バスツアー 宝塚市国際交流推進議員連盟との共催でたつの市国際交流協会訪問、懇談会

英語講演会 (ジェローム マリアン氏)
2017.12.3

異文化相互理解事業について

異文化相互理解事業とは、お互いの文化の違いを認めあい、同じ人間として相手の立場を尊重しあえる地域社会を作っていくための相互理解の確立を目指し、市民が身近な交流や学習活動を通じ、異文化や歴史を正しく認識し、広い視野と高い人権意識を持つことができるよう、国際理解を深めるための事業として、平成10年度（1998年度）から、宝塚市、宝塚市国際交流協会、宝塚市外国人市民文化交流協会の3者共催で実施してきたものです。

それまでにすでに実施していた「外国人日本語スピーチフォーラム（現大会）」に加え、講演会や歴史展（現啓発展）、語学講座、料理教室などの事業を展開し、本市における多文化共生社会の実現に向けて一定の役割を果たしてきました。

今後、留学生や技能実習生の来日がますます増加し、地域に居住する社会の一員として、隣人としての外国人市民との相互理解が、これまで以上に必要になってくると思われます。そのような状況の中、当事業の果たす役割は、さらに重要性を増していくのではないでしょうか。引き続き、国際交流協会のみなさまの協力を得ながら事業の充実に努めていきたいと考えていますので、何卒よろしくお願い申し上げます。（宝塚市文化政策課課長 坂田 響）

年表と写真で見る30年⑤（2018～2019年）

異文化相互理解事業「ロシア料理教室」
2018.2.9

NGO活動紹介展 2018.3.10～11

異文化相互理解事業「講演会」
(水野 直樹氏) 2018.12.17

2018
(平成30)年

・TIFA創立30周年記念ボランティアコンサート
ウィーン・ピアノ五重奏団
・創立30周年記念式典、
記念講演会

・国際理解講演会
青い目の人形(山田
真知子氏)
・短期集中語学教室
初開講(キッズ英語、
トラベル英会話)

創立30周年記念式典 2018.10.17

創立30周年記念講演会 (シリア・トンプソン氏) 2018.10.17

2019
(平成31)年

・TIFA新春懇話会

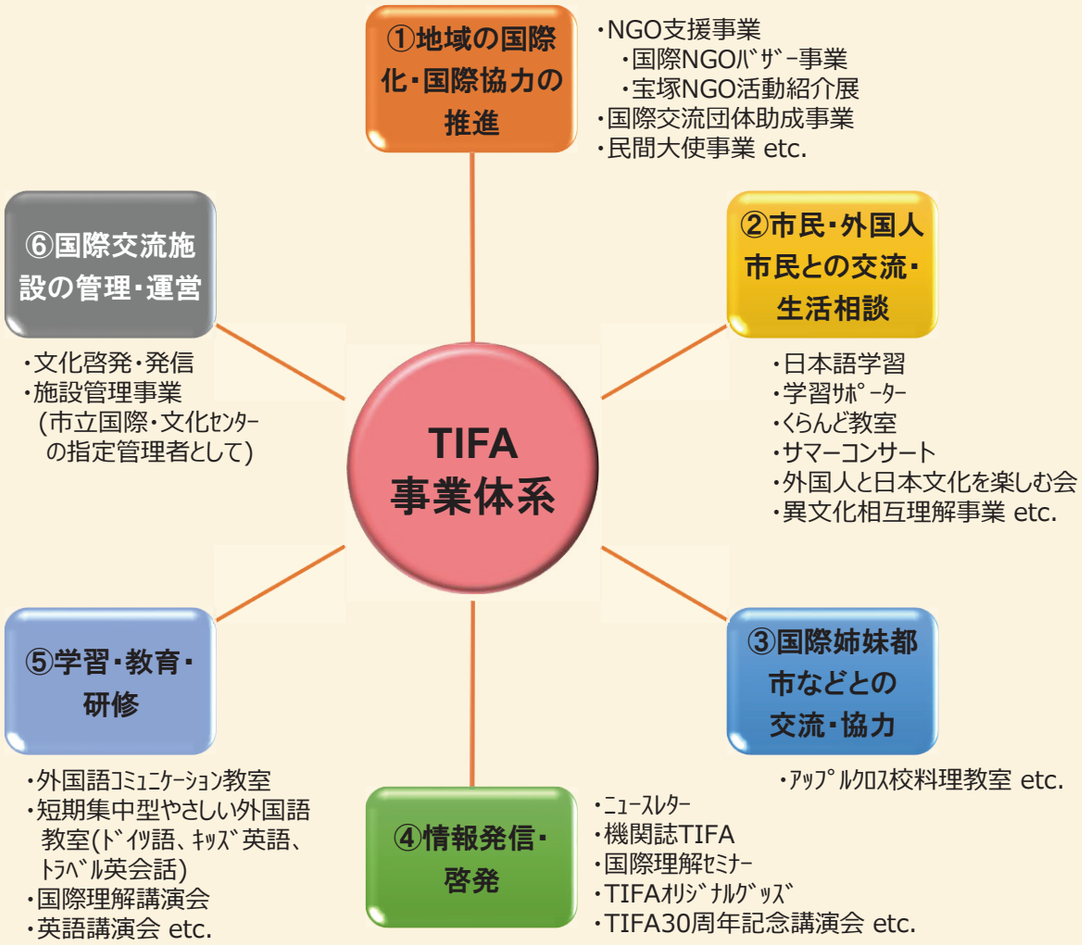
・異文化相互理解事業
第24回宝塚市外国人
日本語スピーチ大会
・第23回宝塚NGO活動紹介展
・国際交流フェスタ
・TIFA創立30周年記念誌発行
・第3回国際理解講演会
(青木 俊一郎氏)

TIFA創立30周年記念誌

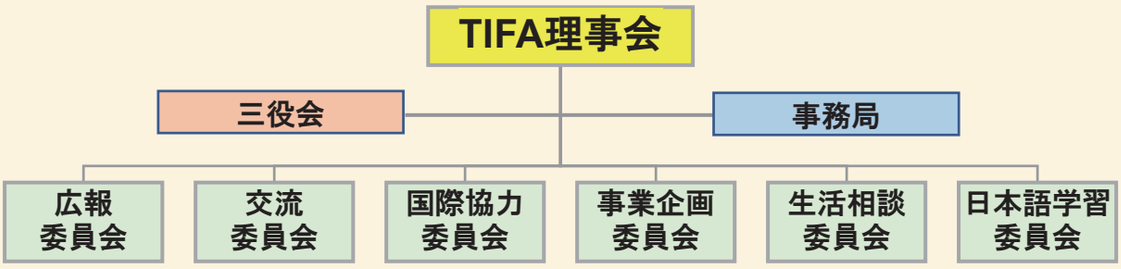
2019年TIFA新春懇話会 2019.1.6

TIFAの事業体系&組織図

宝塚市国際交流協会(TIFA)は、地域の外国人の生活サポート、市内の国際NGO団体への支援、海外姉妹都市との交流事業、異文化の相互理解を深める啓発事業など、市民の国際交流や国際協力を推進する特定非営利活動法人の団体です。



上記①～⑤の事業セグメントに該当する個々の事業計画は、年度毎に下記の6委員会により分担され事務局のサポートを得て、実行されます。
現在、TIFA会員が希望する委員会に登録の「事業委員」約100名は、ボランティアとして所属の委員会の事業企画・推進のための活動を支えています。



TIFA 6委員会の活動内容

広報委員会

国際交流協会の広報とTIFA活動の理念を共に学習する事業

●機関紙「TIFA」の発行と月刊「ニュースレター」の編集と監修
●国際理解をテーマにしたセミナー、講演会、姉妹都市関連のコンサート事業など
●協会の各種PRと普及活動

交流委員会

外国人市民、来宝外国人との出会いを通じて交流を行い、相互理解を深める活動をしています。

●英語サロン：
　外国人講師を囲んで英語でお喋りを楽しみます
●英語講演会：
　生の英語で外国の文化を勉強します
●外国人と日本文化を楽しむ会：
　外国人に日本文化を紹介します
●国際交流フェスタ：
　在住外国人を交えて歌や踊り等楽しいイベントを行います
●サマーコンサート：
　外国人演奏家などによる演奏会を夏に開催します

国際協力委員会

伝統文化や豊かな心を学ぶ「共生」としての国際協力の実践活動をしています。

●宝塚で活躍するNGO団体と共に、NGO活動紹介展、バザーを実施（写真右上）
●学校、団体へ外国の事情を説明する「民間大使」の派遣、運営（写真右下）
●市民や民間団体を通じて国際協力、交流活動を支援する「助成金制度」の運用

生活相談委員会

在住外国人や海外に出かける日本人に、国内外の生活に関する相談(コンサルティング)や情報を提供します。

●在住外国人の生活面(教育、法律、住居など)のコンサルティング、 海外に出かける日本人の留学、赴任、旅行などのコンサルティング(写真右上)
●在住外国人へ、日本の生活オリエンテーション
●日本料理、外国料理教室を通じて、異文化の相互理解(写真右下)
●外国人支援のフリーマーケット(Flea Market)実施

日本語学習委員会

日本語を母語としない人を対象とした日本語教育事業を展開しています。

●日本語教室、個人指導レッスン、来宝者への日本語レッスンなどの実施(写真左上)
●異文化相互理解事業に基づく日本語スピーチ大会の実施(写真左下)
●くらんど人権文化センターでの日本語指導

事業企画委員会

外国語教室を中心に文化、習慣の違いを知り、国際理解・交流に役立つ事業の企画・運営を行います。

●外国語コミュニケーション教室の企画・運営
年間コースで英語、フランス語、韓国語、中国語、タイ語、インドネシア語の6言語11コースを開講(写真右上)
●短期集中型語学講座の企画・運営
初心者向け3カ月間のコースでキッズ英語、トラベル英会話、ドイツ語、イタリア語、ロシア語の5コースを開講
●国際理解のための映画会等の企画・運営
●TIFAオリジナルグッズの企画・販売(写真右下)

海外姉妹都市(オーガスタとウィーン市第九区)

オーガスタ・リッチモンド郡との国際姉妹都市交流

アメリア合衆国ジョージア州第2の都市オーガスタは、1995 年にリッチモンド郡と合併し、人口約 19 万人。
有名なオーガスタ・ナショナル・ゴルフクラブでは、毎年マスターズ・トーナメントが開催される。 州花はハナミズキ

1988 年秋、ディバニー市長ら 11 人の友好使節団来宝。1989 年3月オーガスタ市長より友好の印としてハナミズキの苗 40 本が贈られる。1989 年 4 月 3 日 アメリカ合衆国ジョージア州オーガスタ市(現在のオーガスタ・リッチモンド郡)オールドガバメントハウスにて姉妹提携調印式を行う。
友金市長及び宝塚市民交流団がオーガスタ市を訪問し同年 5 月 13 日宝塚ホテルにて姉妹提携調印式を行う。

★ 主な交流の記録

1990 アメリカ南部水彩画展(南部水彩画協会会長来宝)岩堀団長以下 12 名、宝梅中学校吹奏楽部 60 名(写真右)、JC 青少年セミナーメンバー40 名、教育交流団7名、医療交流団3名と次々にオーガスタ市を訪問。スピーチ・ステート・ラジオ局より姉妹都市提携取材に来宝

1991 DFA 芸術学校生徒 51 名、フレンドシップ・フォース 16 名来宝 正司市長オーガスタ市訪問、交流について基本方針協議

1992 オーガスタ市に建設の日本庭園に灯籠 2 基寄贈。 ガールスカウト団員 2 名来宝、キャンプ参加

1993 文化交流団 107 名オーガスタ市訪問

1994 オーガスタ市手工芸品が宝塚市手工芸展への参加
オーガスタ・ウィークに市長一行来宝、水彩画展開催

1995 阪神・淡路大震災見舞にお菓子とオモチャ約 2000 個届く

1996 スポーツ市民交流団 160 名派遣。 アトランタ・オリンピック観戦

1997 オーガスタ市より看護学生 6 名ホームスティ

1998 10 周年によせて 花とみどりの水彩画展、オーガスタ水彩画展開催

1999 姉妹都市提携 10 周年記念事業開催、市長一行来宝、講演会開催
市民訪問団 58 人派遣、姉妹都市交流推進確認宣言署名式典

2001 オーガスタ・リッチモンド州立看護学部学生来宝

2002 オーガスタ市長来宝、歓迎会(9.11 多発テロ募金のお礼)

2014 「姉妹都市オーガスタ 25 周年記念交流会」を開催。 オーガスタ交響楽団音楽監督のシズオ・クワハラ氏、作曲家ジョン・ヘネケン氏、キャロル・ヘネケン氏をゲストに市関係者、TIFA 関係者等 35 名参加。「宝塚市制 60 周年記念・宝塚市交響楽団第 55 回定期演奏会」をシズオ・クワハラ氏の客演指揮で上演。演奏会において、オーガスタ出身の作曲家であるジョン・ヘネケン氏による姉妹都市提携 25 周年記念曲「皆その時にかなって美しい」が世界初演された。

ウィーン市第九区(アルザーグルント)との国際姉妹都市交流

シューベルトの生家と宝塚歌劇の原点とも言われるオペレッタの殿堂フォルクスオーパーがあるオーストリア共和国ウィーン市第九区(通称アルザーグルント)との提携。今は教会となった生家に宝塚市民のコーラスが小さな礼拝堂に響きわたり音楽の街にふさわしい厳かな調印式であった。

第九区はウィーン市内の北西部に位置、人口約 45,000 人、面積 2.99hkm2。シューベルトが生まれ、ベートーベンも住んだ音楽の街。第九区の花はカーネーション

★ 主な交流の記録

1992 「宝塚シューベルトの夕べ」

1994 9 月 28 日 「ふれあいウィーン文化デー」
ウィーン在住プリンツ・留美子夫妻コンサート
10 月 18 日 ウィーン市第九区との姉妹都市提携調印式 (写真右)

1995 阪神・淡路大震災見舞いにチョコレートが贈られる
提携 1 周年記念事業、市民交流訪問団がウィーン市第九区役所表敬訪問

1996 宝塚市民ドナウ河千本桜贈呈式・第九区友好交流訪問

1997 提携 3 周年記念事業「ウィーンの真珠」来宝
宝塚市民ウィーン訪問団がウィーンで宝塚紹介写真展開催

1999 提携 5 周年記念事業ウィーン紹介展、講演会、料理講習会、オーストリア名画上映

2000 記念講演会「ウィーンの庭園について」

2001 ウィーン市来賓歓迎交流会 ウィーン市より寄贈された「ウィーン庭園」の開園式

2002 宝塚市民交流団がウィーンを訪れ植樹桜の視察、 追加植樹 (写真下)
提携 8 周年記念事業 ウィーン・ピアノ四重奏団コンサート

2004 提携 10 周年記念事業 オーストリア・コーラスグループ
「プルカント」によるア・カペラコンサート

2007 宝塚・ウィーン交流大使事業始まる

2008 TIFA 創立 20 周年記念プリンツ・留美子コンサート

2012 プリンツ夫妻 東日本震災チャリティコンサート

2014 姉妹都市提携 20 周年記念コンサート「ウィーンの風にのって」を開催。出演者のプリンツー家に委ねられたウィーン市第九区長からのメッセージを受理

2015 ウィーン市第九区市議会議員、デュベック夫妻。TIFA 訪問
ウィーン市学生との交換手紙に子息の手紙を発見して大喜び

2016 プリンツ夫妻「ウィーンの風にのって」

2017 ゲーデ弦楽四重楽団によるフレンドシップコンサートを
ベガ・ホールで開催 (主催: 宝塚市)

2018 提携 25 周年プレ記念事業 ウィーン・ピアノ五重奏団
ボランティアコンサートをベガ・ホールで開催 (主催: 宝塚市、TIFA)

会 員 投 稿

「日本人の国際化」の問いを考える

内池　滋

表題は、TIFA 設立総会で講演されたアメリカ総領事からの問いかけです。これらの質問に対して、私も考えてみたいと思います。

◆ 冒頭、総領事は「**国際化というのはどういう意味ですか**」と問うています。

日常用語から捉えると、

・諸外国に出て行く
・つながる
・国境を障壁と見ない
・自由に来する。
・異文化を自然体で理解する
・外国の人々と抵抗無く接することができる・・・などでしょうか。

◆ 2つ目は「**日本は本当に国際化したいのですか？**」とあります。

この問いの狙いはどこにあるか分かりませんが、この主語には、

「国（レベル）としての・・・」 と

「個人・市民（レベル）・・・」が含まれているのでしょうか。問題は、「個人・市民レベルの在り様がどうなのか」でしょうし、問いかけている総領事の真意はそこにあるのではないか？

この問いに答えられる客観的データは、私は持ち合わせていませんが、改めて問えば、きっと多くが「したい」と弱々しく返ってくるでしょう。そもそも個人レベルでは、日常的に、その必要性を感じていない、つまり何の不自由も無いという状態ではないですか。“いや、別に。大丈夫”と。

◆ 3つ目の「**今の日本は、国際化していないという意味ですか**」とありますが、次の問いと一緒に考えてみましょう。

◈ 4つ目 「**国際化した日本とはどういう日本ですか**」についても、主語を「市民レベルとしてどうか」と置き換えてみましょう。

答えは、冒頭に書いた2行のような考え方や行動が日常的に、行き渡っている理想的なレベルのことかと思います。

現実は残念ながら“あるべき姿”と大きな隔たりがあります。依然として異文化アレルギーと差別言動が止みません。教育現場では、茶髪は黒く染めろと。

それでいて“個性が大事”などと矛盾した指導。また、英会話能力の向上をもってグローバル人材の育成だというおそまつな教育方針。このようなことが国レベルで横行しているから、美しい日本語を放棄して、何でもカタカナ英語にすれば国際的でカッコイイような風潮がまかり通る。

“リスペクト”を連発する人を尊敬できますか？

こうした現状をみると、真の国際化普及・浸透のために、TIFA が果たす草の根の活動は、ますます重要であり、期待が大きいと思うのです。

30 周年記念事業に携わって

山中　光

IT 社会の中で広告・宣伝の情報発信は今やインターネット、SNS 等のメディア活用が普及しているが、チラシ等の紙媒体も不可欠でかつ重要な宣伝ツールである。

今般、30 周年記念講演会の案内チラシの編集や機関誌記念号等の編集サポートの機会をいただいた。講演会やセミナーについてはその講演内容により多種多様の案内チラシが目につくが、それらは編集者個々人の感性やパソコンによるデザインの多様化により、品質は別として百人百種のデザインが出来上がる訳である。

今回の講演会チラシの編集は、先ずレイアウトする前に完成品のイメージを予め描きながら、“客観的にみて、より見やすく、**分かり易い**”を主眼に構成素案をまとめ、関係者に校正を依頼し、また意見・要望も確認しながら、30 周年記念事業に相応しい、より訴求力のあるチラシ作りに努めた。

また機関誌記念号では全頁フルカラー印刷の

為、各章でページ色を変えるなりカラフルで品質の高い機関誌作りに傾注した。掲載情報が確定するまで試行錯誤の連続で苦慮した部分も多々あるが、この体験を生かし今後も“目を引く”広宣物作りに心がけて行きたい。

創立 30 周年に思うこと

城戸ますみ

この記念すべき年に生活相談委員会の委員長として活動することはきっと思い出深く残る事と楽しみにしております。30 年前、私は TIFA 設立式典には参加した後、すぐ夫の赴任地 New York へ行くこととなり、入会したのは 5 年後の帰国時でした。入会した委員会では、皆が活き活きと沢山の行事を計画しどんどん実行し、その姿に圧倒されたものです。

当時の相談内容としては、海外留学、海外旅行、海外赴任地の教育事情等・・・が主だったと記憶しています。そして 30 年を経た今、外国籍の相談者も増え、日本での生活習慣、ビザ問題、国際結婚、離婚問題へと変化し、私達も幅広い研修を持ち知識を増やしていくように努めております。

30 年続けた相談業務は今さらに重要な活動になっていることを感じつつ、この先、まずは 2020 年の東京オリンピックの時にはどんな相談があるんだろう、多いんだろうか、と考えるのは大変興味のあるところです。

これから先の TIFA

藤本由利子

30 年の記念式典は終わりました。ここからは 30 年後と言わず、10 年後、5 年後の TIFA の姿を思い描いてみませんか？

国際交流と言えば以前は外国人との特別な社交界的様相（？）が強かったと思いますが、今やお隣さんは外国人。ぐっと身近な存在となっています。

そんな中で TIFA の果たすべき役割は何か？その一つとして外国人がもっと気楽に集えるような環境づくりが必要だと思います。

以前花みずきの前身として、週一で図書コーナーを外国人だけのおしゃべりの場として開放したことがありました。勿論、リーダーが必要です。その場所と日時を周知させ吸引するための知恵も必要です。「言うは易く行うは難」という諺がありますが、一歩踏み出すことも大事です。

今までは日本人が企画した事業に外国人を一所懸命に集めていました。そこで発想の転換を。外国人の企画に日本人が参加。又は両者が対等な立場で共同企画。その為にも事務局や受付に、外国人を置くことも必要かと思います。外国人にとっても、受付・事務局に外国人が居れば気持ちも和らぐのではないでしょうか。30年を機に、30年の伝統をも大切にすると共に何事も旧態に捉われず安穏することなく、皆様もそれぞれの TIFA の未来を思い描いてみてはいかがでしょうか。

共生問題！！！

森脇洋子

今後、少子高齢化の日本社会はどうなっていくのでしょうか？　外国人労働者受け入れ数を大幅に増やすため、政府は規制を緩和することに決めました。遠からず日本は　家族、学校、コミュニティや身近な地域社会での外国人との 「共生」 生活が待っています。国にとっても、日本国民にとっても初めての経験でうまく乗り切ってやっていけるかどうかが大きな問題になります。

TIFA は創立以来ずっと「どうすれば外国籍の住民とうまく共生していけるか？」の問題に取り組んできました。お互いの文化の違いを認め合い、相手の立場に立ち共通点を見つけて折り合いを見つけるという姿勢が何よりも大切であることを長年の活動や経験をとうして学んできました。

今後は「共生」の課題で外国籍の人々と国民との間の橋渡しの重要な役割を担っての更なる活躍を期待する次第です。

創立 30 周年表彰者の声・声・声

TIFA 設立時にご入会以来、国際交流事業に精励され TIFA 発展のため今日に至るまで多大なる貢献をされた方が 14 名おられます。創立 30 周年を迎えるにあたり、永年にわたるご活躍とご功績に対して記念品と感謝の意を受理された方々に、TIFA に入会されたときのお気持ちやこれからの TIFA の在り方や期待することなどを語っていただきました。(順不動・敬称略)

伯井 睦子

TIFA発足の1年前に結成した帰国子女の親の会「kidsの会」の“海外生活よろず相談”が現在のTIFAの生活相談に移行した自然の流れからTIFAに入会しました。当時は日本の国際化が盛んに言われ始めた頃でした。あれから30年、世界の急激な変化が少なからず生活相談の相談内容に反映されていることは、とても興味深いです。宝塚に住む外国人が、TIFAに来れば母国語を話す友人がいて、気軽に生活の悩み等を共有出来、そして他国の文化も理解する機会を得る事が出来る場として活性化出来ればと思います。TIFA会員以外の一般の宝塚市民に、TIFAの存在をもっと知って頂きたい。先日のウィーンコンサートの様な企画を期待したい。

井上 明子

40 年前、家族での 4 年間の英国滞在中に現地の方々から受けた心のこもったサポート。

帰国後、帰国子女の親の会「Kids の会」に入り、自分たちの経験を、子供を伴っての海外在住・子供たちの学校教育・生活環境・帰国後の子供たちの学校等々、心配されているご両親、特にお母さま方とお話し、安心して赴任されるように相談にのる活動をしてきました。その後 TIFA が設立され、その活動が生活相談委員会として引き継がれ、活動も多様化しながら今に至っています。今はあらゆる情報が得易い環境ですが、人と人との交わりを大切にしていきたいと思います。

岸本 夏実

1)英国に家族で滞在した時、沢山の方々に助けて頂き本当に心強く有難く思いました。ご恩返ししたいと思い、創立以来生活相談委員会に所属、異文化間の生活で問題を抱える方々の少しでもお役に立てたらと願っています。

2)ネットで様々な情報が手に入り交流できる時代だからこそなお一層 TIFA の直接のふれあい、支え合い、高め合いを大事にしたいものです。また、末永い存続のために今後の 30 年を支えて下さる方々の発掘が気がかりです。

赤坂 倫代

1) 異文化の中での日々の暮らし、買い物、子育て、地域の情報など滞在先のご近所さんに沢山助けて頂きました。そのお返しが少しでもできたらと TIFA の会員になり身近な相互理解に取り組みました。 2) これまでで交わった人々の顔を思うと 昨今の緊張下の国際情勢のなかにも願いは我々と同じだということを実感します。 これまでの TIFA の活動が今後も自分を支えると思います。

加藤 啓子

感謝状授与者 国際交流市民懇話会に Kids の会(帰国子女の親の会)代表として参加し、協会設立発起人になり、活動を続けて 30 年になりました。
国際交流、理解、貢献に携わる会員の裾野が広がって、多様な人材が協会活動を牽引してくださることを期待しています。

松野 千鶴子

TIFA に期待することは、もっともっと大勢の人々に会員でなくとも参加出来る催物があれば良いなーと男性も参加しやすいような物とか・・・。
例えば定期的に不用品の交換会とか即売会とか。
売上品の一部を活動資金にするとか・・・。
如何でしょうか。

森脇 洋子

30 年前、国際観光モデル地区に指定された宝塚市は Goodwill Guide を募集し宝塚市の歴史、文化などの講座をもちました。小学生時代の 5 年間を海外で過ごした私は、早速登録して半年間の研修を終えた結果、宝塚が大好きになり有志が集まり

文化財ガイドソサエティを設立しました。時を同じくしてTIFAが設立され国際的視野がぐっと広がるのを期待して入会しました。二つの会の黎明期に希望に燃えて活動し続けられたことを誇りとしています。会員のたゆまぬ努力のおかげで今では大きく成長し今後ますますの活動が期待されています。
若い方々の参加を如何にして獲得していくかが今後の問題だと思います。
ボランティアで、仲間と一緒に汗を流して一つの物事を達成できる喜びは、お金では買えません。目には見えないけど自分磨きの一番の場であることに目覚め、親が子供を真の国際人に育てるしか方法はないのでしょうか？

福家 清美

発足当時、もう中国人留学生支援の会を立ち上げていました。まだ兵庫県の HIA も発足しておらず、何かと相談する国際交流協会がなかったので、TIFA が姉妹都市提携を念頭に発足するという情報を得たときは、とても嬉しかったものです。

30 年もの長い間、ボランティアという個人の力の集積で、時代に即応した TIFA に育っていることに誇りを感じています。宝塚の抱える多文化共生社会もきっと乗り越えられることでしょう。

力強い仲間が大勢いることが、とても頼もしいのですが、高齢化が少し心配です。

正司 泰一郎

市長在任中に四つの国が強く心に残っています。

ネパール － 市長就任の 1991 年に、ご縁があったのはネパールでした。多くの市民や企業からの支援金を得て、神戸からインドのカルカッタに陸揚げされた救急車、消防車を市民が交代で運転し、カトマンズまでの 1800 kmを届けたのです。沿道のインドやネパールの小学校に、サッカーボールや文房類も寄贈しました。

救急車、消防車の寄贈、技術指導者派遣事業の4年目にあたる 1996 年は消防車と救急車 5 台の贈呈式に加え、小学校の贈呈・開校式、いけばな展などの親善行事を行いました。

陸送隊は、王宮において国王に拝謁を賜りました。寄贈事業は 10 年間続き、消防車・救急車延べ 30 数台、また小学校 2 校、病院 1 棟、施設 2 棟にのぼります。

オーガスタ － レガッタで有名なオーガスタは庭園都市で、世界的に有名なマスターズゴルフ場があります。1996 年には、総勢 170 人がオーガスタを訪れ、市民同志がゴルフ、卓球、バドミントン、野球、ウォーキング、テニスなど、スポーツ競技を通じて交流を行い、そしてアトランタオリンピックを観戦し、帰途ニューヨークで国連などを見学しました。

国際交流は一般的には行政が主体となりますが、私は沢山の市民に交流団に参加してもらい、文化交流の楽しみを味わって欲しいと願ったのです。
資源もない小さな島国の日本が、国際社会の中で生き残っていくには「日本が好き」といってくれる外国人を沢山作る必要があります。できるだけ多くの市民が外国を訪れ、現地の人と文化やスポーツを通して交流し、日本人に親近感を持ってもらう、これこそ真の外交であり一人ひとりが外交官なのです。

ウィーン市第九区(アルザーグルンド) － 来日されたウィーン市長と東京のパーティーで出会い、第九区との姉妹都市をお願いしたところ、あっさり承諾いただきました。日本とオーストリアが友好通商航海条約を結んで から 125 周年に当たる 1994 年 10 月 18 日に提携しました。125 周年セレモニーは、オーストリア人に花嫁衣装を着てもらったり、十二重で祇園の元舞妓さんが舞い、ウィーン国立音楽大学教授のマインハルトープリンツ、ソプラノ歌手中田留芙子夫妻を交えて、市民訪問団は着物姿でコーラスを披露。日本の文化に触れたオーストリアの方々に喜んで頂き、外務省も鼻が高かったようです。干歳飴を持って 7.5.3 の衣装を着たシモン君はヴィオラ奏者となり何度も宝塚でコンサートを開いています。調印式は、ウィーン市第九区のシューベルトの生家で行い、市民 125 名の訪問団は、喜びあいました。

ベトナム － 発展が目覚ましく同じ仏教国で親日的なベトナム。ベトナム副首相、ハノイ、ハイフォン各市長が日本との交流を願っていたのです。

2001 年、ハイフォン市で、宝塚とベトナムの友好協会の提携式を行いました。市民が同行して、お茶会を開いたり、ベトナム国民が敬愛するホーチミン氏の肖像陶板を博物館へ贈呈しました。隔年毎にベトナムを 訪問し、あいだは国内のベトナムゆかりの地を訪 れて、現地学習や交流を行い、ベトナム語講座、ベトナム歴史講座などの活動も続いているのは嬉しい限りです。

TIFA 独自の活動いろいろ・・・・・

TIFA独自の活動はもとより　行政や関係団体等と連携を取りながら多岐にわたる交流支援活動を続けています。その一端を下記にご紹介します。

国際交流協会「ともだち in 名取」との交流

東日本大震災のあと、私たち TIFA は『TIFA 独自の支援？』について考えました。兵庫県国際交流協会(HIA)に支援先の活動団体で、その活動が目に見え、末永く連携が継続できそうなところを紹介してもらうように依頼したところ、HIA から紹介されたのが宮城県名取市国際交流協会の【ともだち in 名取】でした。早速【ともだち in 名取】を訪問して、義援金をお渡ししました。以後毎年義援金をお送りして 10 年近くになります。名取市からは、美味しいお米が毎年送られて来ます。みんなで少しずつ分けあってよばれながら、さらなる活躍をお祈りしています。

「ともだち in 名取」の活動

名取市は日本人配偶者（外国人花嫁）が多く、主に中国語、タガログ語（フィリピン）、ポルトガル語（ブラジル）に対応して、協会員がボランティアで日本語を教えています。震災では、行政などがいき届かない場所への連絡や捜索に対して、日頃からの交流による尽力がとても大きく貢献したそうです。家族や周囲に問題を抱えている外国人花嫁達にとって、ここの日本語教室はこころの支えであって、今も続いています。2018 年度は　10 か国から集まった仲間が　毎週充実した時間を過ごしています。

異文化相互理解事業の企画運営

異文化相互理解事業とは、身近な交流や学習活動を通じて、アジアを中心とした国々の生活や文化、歴史等を知ることで、お互いの違いを認め、相手の立場を尊重し、予断や偏見のない地域社会を作ることを目的として宝塚市、宝塚市国際交流協会、宝塚市外国人市民文化交流協会の三者が主催者になって 1998 年から毎年実施している事業です。（15 ページ下段参照）

①**外国人日本語スピーチ大会**　2/6 日本語学習の成果発表の場として、スピーチ、内容の審査結果発表及び定住外国人の提言等を行う。（第 24 回スピーチ大会　提言者　金英淑氏　国際・文化センター）

②**講演会** 12/17　アジアを中心とした国々の歴史、芸術、文化、生活、習慣等の違いを理解し、お互いの違いを認め合い、学び合うことで予断や偏見をなくすことを目的として実施。（講師　水野直樹氏「韓国・朝鮮と日本未来に向かって朝鮮近代史・在日朝鮮人史研究の歩みから考える」ソリオホール）

③**料理教室**　1/19　料理を通じて、アジアを中心とした国々を理解するため実施。（講師　塚町ニシャンティ氏　スリランカの家庭料理　さらら仁川 3F クッキングルーム）

④**語学講座**　10/20～12/15　言語を通じて、アジアを中心とした国々の文化・歴史等を理解するため平易な語学講座を開催。（ロシア語　オルガクラシナ氏、タイ語　プラッタナー氏　国際・文化センター）

⑤**異文化相互理解啓発展**　2/21～26 アジアを中心とした国々に対する異文化相互理解の促進を目的とした写真・資料などで構成する展示。（パネル展示と韓国文化の紹介　国際・文化センター）

「留学っておもしろい！」松本・土井アイリン海外留学修了者報告会（市と共催）

松本・土井アイリン海外留学基金の助成金交付を受けた留学者が、留学先での経験や成果について話す「海外留学修了者報告・交流会」が毎年市立国際・文化センターで開催されます。（留学先内訳は右表）

本制度を利用し海外留学した留学者数は、創設から現在まで、198人（男性 62 人、女性 136 人）、留学年齢は 14 歳から 25 歳で 20 歳が一番多く、留学先は 30 ヶ国で、半分近くがアメリカに留学しています。

2018 年の報告会は 12 月 16 日に開催され、下記の 4 名が参加されました。 いずれの発表者も留学体験が、人生経験において、視野が広がりいかに素晴らしい体験を得たか、これからの人生のかけがえのない財産になったようです。

留学先	人数	留学先	人数
アメリカ合衆国	72	タイ	3
英　国	23	アイルランド	2
オーストラリア	16	インドネシア	2
カナダ	13	オーストリア	2
ニュージーランド	12	韓　国	2
ドイツ	10	シンガポール	2
フランス	7	スウェーデン	2
スイス	4	台　湾	2
中　國	4	ベトナム	2
フィンランド	4	マレーシア	2
オランダ	3	その他	9

「エジンバラ大学留学報告」　藤川　実央さん

留学への興味が先にあって、目標を立てました。そして実際に留学に行ってみて、一番大きな学びは自分が予想しないところにありました。

「ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）留学報告」　田中　八恵子さん

英語力は留学せずとも日本でも身につけられます。留学はそれ以上の大切なものを教えてくれます。自分の殻を破って多くのことに挑戦してください。留学はかけがえのない人生の財産になります。

「ノルウェー・オスロ大学　限りなく完璧に近い国で学んで」　小西　紗起子さん

就職活動をしますが、留学で学んだことを還元できるような働き方をしたいと思っています。以前は恐怖すら感じていた英語での会話も、ほとんど不自由なくできるようになり、今は日本に滞在している留学生と交流を広げています。

「タイ・カセサート大学留学報告」　米田　実紀さん

私は留学先で何気なく「体験」していたことが，長期滞在していると「当たり前」のことになり，そしてまた日本に帰ってくると何か「違和感」を抱くことになるでしょう。そしてその違和感は後々日本や世界を変える，また自分を動かす原動力になると考えています。

松本・土井アイリン海外留学基金の助成金とは？

フルブライト交換留学第 1 期生として米国ジョージア工科大学に留学された故松本安弘氏と日系米国人妻のアイリンさんご夫妻の海外留学に対する熱いご遺志を引き継ぎ、国際性豊かな未来を担う青少年を育むため、2002 年 3 月に創設されたものです。松本氏は 1957 年から 44 年間宝塚市民として過ごされ、会社経営に携わられる傍ら、アイリンさんと共に英語に関する数多くの実務書を執筆され、今なお売れ行きが衰えないロングセラー図書のひとつになっています。

2001 年 2 月ご自身の米国への留学、米国での仕事や生活経験を基に、私財のすべてを「青少年の海外留学に役立てて欲しい」との遺言を遺されて逝去されました。

豪州メルビル市・アップルクロス校生徒来宝団受入れ交流事業

「メルビル派遣受け入れ事業」は宝塚市が中学生国際交流推進事業の一環として昭和 61（1986）年度からスタートした交流事業で、毎年市内在住の中学生約 20 名を豪州メルビル市アップルクロス・シニア・ハイスクール（以下、AXSHS）へ派遣し、学校体験やホームステイを通して、オーストラリアの生活や文化を学ぶことを目的としています。

TIFA は受け入れ交流事業として企画し、AXSHS の生徒は派遣生徒宅をホストファミリーとして宝塚での生活を体験しています。

TIFA は市教育委員会と連携、協力し、食文化を通じて日本文化を紹介し、相互交流を図るため、生活相談委員会が「日本料理教室」を開催しています。

参加する生徒達と引率者は毎回違ってはいますが、実習を楽しんでいますし、その後の試食も大変好評です。別れ際に「帰国して料理を作ってみます」と挨拶する生徒が毎年、数人いるのはうれしい成果です。中には巻き寿司用の「巻きす」を購入して帰国する生徒もありました。エプロンを着けて調理するのは珍しい体験のようで、生徒はみんな着けたがり、委員が夫々余分に持参したエプロンの数では足らない状況です。アップルクロス交流事業に親子二代にわたって参加している家庭もあって、毎年この事業の開催が待たれています。

宝塚ジョイア（JOIA）への運営支援活動

2010 年 10 月に遡りますが、同年 7 月に発生した市立中学校生徒2人による自宅火災の 1 人の生徒がブラジルにルーツを持つ生徒であったことに始まります。「ジョイア」はポルトガル語で「宝物」という意味です。ここではブラジルにルーツを持つ子どもたちがポルトガル語やブラジルの文化を楽しく学ぶ場所を持ち親子のコミュニケーションがより良くなるように心がけています。

また、ポルトガル語を保持できるように会話や読み書きを学び、学校の勉強で分からないところの復習や学校の宿題をすることもできます。同じルーツを持つ仲間たちと出会って一緒に楽しく学べる居場所になるように！との思いが込められています。

活動は『書き初め』から始まりました。「イースターエッグづくり」、「母語」や「ブラジル文化」などを学習しています。

NGO団体支援事業

“発展途上国の自立と平和を願って”活動している下記のNGO団体の最近の活動状況、支援の国の事情を知ってもらうためのNGO活動紹介展・活動写真展やバザーの開催をサポートしています。

支援の内容

＊NGO活動紹介展・活動写真展（日ごろの活動状況、支援の国の事情を知ってもらう）

＊NGOバザー（資金調達）

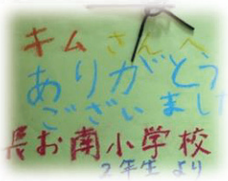
＊助成金（活動の資金援助）

- 宝塚ベトナム友好協会
- ネパール教育開発機構
- 日本スリランカ友の会関西
- フィリピンAKAYプロジェクトを共に創る会
- JAC日本はアジアの国々と共に（バングラデシュ）
- 宝塚ワイズメンズクラブ
- 兵庫県中国人留学生支援の会
- フィリピンの女性と子供と一緒に歩む学生団体くじら
- 学生国際協力団体CUE(ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ)
- 学生団体Infinite Connection（ラオス）

NGO連絡協議会参加団体

民間大使派遣事業

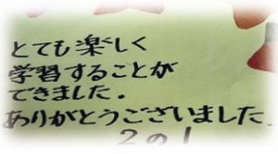
国際理解教育の実現の為、主に宝塚在住の外国人を民間大使と名付け、その大使を小・中・高等学校・諸団体へ派遣し自国の文化等々を紹介をしてもらっています。“出前講座”には十数名の外国人が協力参加しています。



街を歩くと多文化の子が一杯いる。多文化教育が自然に流れていくのがいいと思う

民間大使（金采映）

“お互いの違いを知って
その違いを認め合おう“



民間大使の主な国名

韓国・中国・ベトナム・タイ
モンゴル・ネパール・パキスタン
ロシア・ルーマニア・イタリアほか

宝塚市国際交流協会 団体・法人会員

2019.2.15 現在

No	団 体 会 員		
1	Kidsの会	会長	古河　多佳子
2	国際ソロプチミスト宝塚	会長	正司　泰子
3	在日本大韓民国民団　兵庫県宝塚支部	支団長	朴　辰珠
4	宝塚市外国人市民文化交流協会	会長	趙　和美
5	宝塚市花き園芸協会	会長	金岡　照章
6	宝塚市国際観光協会	会長	小早川　優
7	宝塚市自治会連合会	会長	中村　一雄
8	宝塚商工会議所	会頭	宮本　博司
9	一般社団法人 宝塚青年会議所	理事長	下井　伸英
10	宝塚茶道同好会	会長	西村　宗秀
11	宝塚トーストマスターズクラブ	会長	小西　寛子
12	宝塚文化財ガイドソサエティ	会長	水島　道子
13	宝塚中ロータリークラブ	会長	田中　哲三
14	宝塚ベトナム友好協会	会長	植田　直子
15	宝塚ロータリークラブ	会長	木野　達夫
16	宝塚ワイズメンズクラブ	会長	青柳　美知子
17	NPO法人いきいきシニアゼミナール	理事長	篠原　和豊
18	日本スリランカ友の会関西	会長	藤井　健三
19	伝統芸能に親しむ友の会	会長	花柳　友章
20	NPO法人　国際交流団体　未来	理事長	上田　一彦
21	兵庫県中国人留学生支援の会	会長	山田　敬三
22	フィリピンAKAY　プロジェクトをともに創る会	代表	古武家　育子
23	NPO法人　長尾すぎの子クラブ	理事長	山中　俊一

No	法 人 会 員		
1	(株)エイ・ダヴリュー・エイ	社長	ノベルト・テッシュ
2	宝塚歌劇団	常務理事	髙田　健司
3	宝塚サンビオラ商業協同組合	理事長	河合　芳子
4	宝塚大学	理事長	玉本　隆一
5	宝塚ワシントンホテル	社長	大島　登美子
6	阪急電鉄(株)	部長	大和　正典
7	ホテル　若水	代表	小早川　優
8	ソリオ宝塚都市開発株式会社	社長	古川　一洋
9	(株)ハイレックスコーポレーション	社長	寺浦　實
10	(株)エフエム宝塚	代表	矢野　浩臣

宝塚市国際交流協会　歴代役員

2018.5.30 現在

年度		会長	副会長		主な出来事
1988	昭和 63	岩堀　通夫*	仲原　晶子*	-	10 月創立
1989	平成元	同	同	-	4 月　オーガスタと姉妹提携
1990*	平成 2	同	同	-	
1991	平成 3	同	同	-	
1992*	平成 4	同	同	加藤　啓子	
1993	平成 5	同	同	同	国際・文化センター開設
1994*	平成 6	武田　直哉*	聴濤　襄治*	同	ウィーン市第九区と姉妹提携
1995	平成 7	同	同	同	
1996*	平成 8	同	同	同	
1997	平成 9	同	同	同	
1998*	平成 10	森脇　洋子	同	同	創立 10 周年
1999	平成 11	同	同	同	
2000*	平成 12	同	安本　重徳*	中明　博美	
2001	平成 13	同	同	同	
2002*	平成 14	同	聴濤　襄治*	同	自治大臣表彰
2003	平成 15	同	同	同	創立 15 周年
2004*	平成 16	上坂　一二*	加藤　啓子	伊藤　通	市制 50 年　　総務大臣表彰

2004.10.14　特定非営利活動法人 宝塚市国際交流協会設立総会　NPO 法人化

年度		理事長	副理事長		主な出来事
2005*	平成 17	上坂　一二*	加藤　啓子	伊藤　通	4 月　NPO 法人化
2006*	平成 18	伊藤　通	藤本　由利子	-	
2007	平成 19	同	同	-	
2008*	平成 20	加藤　啓子	木村　悦子	-	4 月国際・文化センター指定管理者へ　　創立 20 周年
2009	平成 21	同	同	-	
2010*	平成 22	同	奥田　啓子	-	
2011	平成 23	同	同	-	
2012*	平成 24	同	柴田　明	金井　悳	「ともだち in 名取」と姉妹協会に
2013	平成 25	同	同	同	4 月　国際・文化センター指定管理者再認定へ　　創立 25 周年
2014*	平成 26	同	蓮胤　安宏	藤本　由利子	
2015	平成 27	同	同	同	
2016*	平成 28	同	大世古　健治	奥田　啓子	
2017	平成 29	同	同	同	
2018*	平成 30	同	同	同	4 月　国際・文化センター指定管理者再認定へ　　創立 30 周年
2019	平成 31	同	同	同	

＊ 役員年度は 6～5 月　＊ 改選年度　＊ 物故者

月刊誌「NEWS LETTER ニュースレター」について

この NEWS LETTER (以降NL) は、国際・文化センターの活動や TIFA(宝塚市国際交流協会)の事業や国際協力の理念を市民に周知して頂く広報活動の 1 つとして、毎月 1 回発行している月刊誌です。

年に 1 ないし 2 回発行している機関誌「TIFA」とは異なり、主に国際・文化センターで行われるイベントの紹介や、TIFA が主催、又は支援する団体の行事の予告やその報告など、その時々の情報をリアルに市民に伝え、より深い国際理解と密接な国際交流、理解ある文化の発展に寄与しています。また、NL は TIFA が NPO 法人に移行してリニューアル再発行から既に 10 年以上を経過しましたが、この間の激しく揺れ動く世界情勢の波と共に、その時々において、身近な宝塚の国際交流の場がどのように変遷していったかを、この月刊誌で顧みる事も出来る貴重な資料です。

国際・文化センターで開催される色々な事業が宝塚市民により理解され、より活性化される為の 1 つの手段として、 この NL の役割は重要であり不可欠ですが、僅か 4～8 頁という限られた紙面上で如何に必要十分な情報を分かり易く伝えるかが、永遠の課題となっています。

元号が変わる 2019 年、期せずして 1 月号(第 130 号)からは全頁カラー版となり、より読みやすくなりました。TIFA のこれからの発展と共に NL 紙面の更なる充実、付加価値の向上を目指して編集員一同、努力して行きたいと思っています。読者の皆様の一層のご支援をお願い致します。

尚、TIFA の広報委員会は、【わが街にようこそ】、【団体会員紹介】、【ギャラリー訪問】のコラムを担当しています。（NL 部会）

2018(平成 30)年度・2019(平成 31)年度　広報委員会

広報委員長　福家 清美(NL)　・　副委員長 徳田 潤

広報委員　安藤 康晴　石原 美生子　奥田 啓子(NL)
加藤 啓子　杉本 和子　辻 敦子　寺本 早苗
前田 芳一　森脇 洋子　和田 芳明（NL）

山中 光（デザイン担当）

TIFA 創立30周年記念号（機関紙TIFA 47号）

発行日:　2019年（平成31年）3月15日
発行者:　特定非営利活動法人　宝塚市国際交流協会
〒665-0011兵庫県宝塚市南口 2-14-1-3
電話: 0797-76-5917　Fax : 0797-76-5918
URL: http://www.tifa.be/
E-mail: tifa@jttk.zaq.ne.jp

発行責任者: 理事長　加藤　啓子
印刷・製本:　らびっと
〒661-0978 尼崎市久々知西町2丁目11番11-907号
TEL　06-6426-9170　FAX　06-6426-8677

特定非営利活動法人　宝塚市国際交流協会

Takarazuka International Friendship Association (TIFA)